

## 第1回赤ちゃん協議会における主な意見(R4.7.5)

### 【産科医等の確保】

- ・若手をリクルートしているが難しい
- ・産科の中堅の指導医、新生児科医が非常に少ない。養成が必要
- ・県による支援をお願いしたい  
(若手医師のリクルートや奨学金、専門医取得研修等への財政的支援)

### 【産科医療に必要な体制】

- ・働き方改革に対応するには、産婦人科医は最低5名(産科のみなら3名)必要
- ・働き方改革に対応した医師の派遣体制を検討する必要がある
- ・妊産婦の緊急時の受入には、産科医だけでなく、小児科医(新生児科医)、麻酔科医など他科との連携が不可欠
- ・産科医だけでなく、助産師も不足している

### 【能登北部の体制強化】

- ・能登地区への産科医派遣は、両大学が協力して行う必要がある
- ・能登に新たな分娩施設を整備するには時間がかかるため、まずは既に産科医のいる輪島病院に複数の産科医を派遣し、能登北部の産科医療を立て直してはどうか
- ・輪島病院への常勤医師の複数配置、特定の医師による週1回の外来診療ができるよう、派遣をお願いしたい
- ・できるだけ近いところで安心して出産できることが望ましい
- ・助産師による妊婦検診の充実など、もっと助産師を活用してはどうか
- ・出産だけでなく、がん検診の充実も含め、女性の健康に配慮した若い女性が住みやすい街を作ることが必要